

H M 講習

【一部既報】ヘリテージマネージャー（HM）第1回育成講習会がこのほど、福島市の県建設センターで開かれ、兵庫県でHMの概念と制度を作り出した沢田伸ひょうごヘリテージ機構代表世話人と村上裕道兵庫県教育委員会事務局参事が昨年度に引き続きトップ登壇した。

兵庫県宮内担当職員で建築士だった沢田氏の下に村上氏が訪れ「HMを



（上から）第1回講習、昨年引き続き講師を務める沢田氏、村上氏



やりたい」と引き込んだのが始まりという。兵庫は、文化財と文化財に匹敵する建築物を有していたが、阪神・淡路大震災により被害が生じる。ところが、文化財が手厚い支援を受けよみがえる一方、文化財指定はされていないものの、同様に町の風景を形作ってきた建築物は公費解体の制度もあり消失。戦前からの名建築と言われた旧第一勧業銀行（三井銀行）神戸支店、旧内田汽船本社なども例外ではなく、これを目の当たりにした兵庫県が中心となり文化庁に働きかけることで、指定

自ら基準で評価再確認を

のみだった文化財制度に、活用することで保存につながる登録文化財制度が8年に発足した。ところが、一定の期間は頭打ちになる。保存活用のための専門知識やマンパワーの不足が原因だったため、そこで必要となったのが「人材育成」つまりヘリテージマネージャーの育成だった。修

復市場の形成やスクラップアンドビルドからストック活用へという社会動向、固有の風景の回復という時代の気分も後押しした。沢田氏は建物の老朽

化・機能不全に対し「建築界は技術革新を行わず、安易に改築を進めてきた」と指摘。東京大生産技術研究所は、2030年には新築1に対し改修9の割合になると予測しており、欧州では既にこの状態に入っているといる。技術革新さえできれば、50年100年持たせることもできるはずで、技術者としてこれを

行っていたいとした。ヘリテージは「地域に眠る歴史文化遺産」と兵庫県文化財保護審議会が、定義付けているがこの「歴史文化遺産」とは地域文化を構成する有形無形を含む全てのものを考える。建築の人間になる

もの価値を考えると「誰にとつて」が肝要。全国的に見るときほどこでもないものが、その地域にとつては大事なものである。お仕着せの基準ではなく、自分たちの地域が作る「やわらかな基準」でその価値が説明できれば、地域にとつてかけがえのないものが見えてくると説明した。

この後、沢田氏は兵庫県でのHM制度の歴史を説明。16年までは養成したHMによるネットワークを運営していたが、現在は建築士に限らず学生、芸術家、マスコミ、行政、一般も参加する「ひょうごヘリテージ機構」ズ邸は、結婚式場として使用されているという。次回は27日、溝井宇

理から、HMの在り方を考察した。シエームズ邸は神戸市を代表する建築物の一つ。これを有する企業は宅地にして販売しようとしていたが、これに対し村上氏は再利用し異なる形で使用するほうが収益が上がり、都市の魅力が増すと提案した。HMが関わる際に重要なことは「地域にとつて」「ビジネスモデルたり得て（赤字にならず）魅力が増す使い方は何か」の2点で、この企業が言うように宅地化しても、そこに雇用は生まれず、人は住み続けられない。これを地域は考えないと、厳しい状況が待っていると主張した。現在、シエームズ邸は、結婚式場として使用されているという。

次回は27日、溝井宇一氏（溝井宇一建築事務所）、三浦藤夫氏（三浦工匠店）が講師となり、「歴史的建造物の修復保全」を学ぶ。